

学科 学年	S3	科目 分類	材料工学[材料] Materials of Machine	講義 必修	前期 1履修単位	学習教育目 標 G	担当
概 要	ハードウェアを構成する材料の選択は、意図した機能、品質を満たすことである。本講義では、機械材料に対する興味と認識を深めることを目的として、化学組成、特性と機能、用途などについて解説する。						
科目目標 (到達目標)	機械材料、主として金属材料(構造用鋼、合金鋼、鋳鉄およびアルミニウム、チタンなどの非鉄材料)について構造、種類および熱処理などについて理解する。また、特殊材料(複合材料、機能材料など)の種類、特性と機能、用途などについて理解する。						
教科書 器材等	「機械材料入門」佐々木雅人 著、理工学社						
評価の基準と 方法	定期試験得点80%、出欠・受講態度20%で評価する。60点以上を合格とする。						
関連科目	なし						
授業計画							
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観不可)					
第1回		機械材料のあらし					
第2回		金属材料の性質					
第3回		鉄と鋼(1)					
第4回		鉄と鋼(2)					
第5回		鉄と鋼(3)					
第6回		合金鋼(1)					
第7回		合金鋼(2)					
第8回	×	定期試験(中間)					
第9回		鋳鉄(1)					
第10回		鋳鉄(2)					
第11回		非鉄金属材料(1)					
第12回		非鉄金属材料(2)					
第13回		複合材料					
第14回		機能材料					
第15回	×	定期試験(期末)					
第16回							
第17回							
第18回							
第19回							
第20回							
第21回							
第22回							
第23回							
第24回							
第25回							
第26回							
第27回							
第28回							
第29回							
第30回							
オフィス アワー	非常勤であるため、授業の前後15分ほどの時間帯のみ非常勤講師による。						
授業アンケートへの 対応	機械構造における材料選択の重要性を説明。履修内容を試験前にプレテストの是非を問う。						
備 考	07年度より教科書変更						
更新履歴	070130新規						

丸山 公孝

Kimitaka Maruyama

ミズための大きな要素
ミズ目的として、材料の

ミニウム、マグネシウム
による特性の変化、用
機能などを理解する

以上を合格とする。

参観できません。)

市室で質問に対応でき

メントで再説明。質問